

■テンプレートに記述された<head>タグについて

Section2-3 以降のテンプレートファイルのリストで、<body>タグ内に<head>タグが記述されていますが、これは<header>タグの誤りです。

そのまま記述しても問題はありませんが、HTML 本来の書き方からはずれるので、<header>に置き換えて記述して下さい。

なお、<body>の手前にある<head>は、本来の役割のものであるので変更する必要はありません。

■リスト 3-1 について(P.122)

【訂正】

リストの下から 8 行目にある「`var query_obj =`」は不要につき削除します。

■リスト 3-11 について(P.145)

【訂正】

リストの下から 1~2 行目の間に「`response.end();`」を追加します。

■P.163 リスト 3-17 9 行目

【誤】 `<input type="hidden" id="id_input" name="id" value=""><p>`

【正】 `<input type="hidden" id="id_input" name="id" value=""></p>`

■リスト 3-19(P.168) 上から 6 行目の文末

【誤】 `</buttonp>`

【正】 `</button>`

■P.210 本文 4 行目、5 行目

【誤】 `index.ejs`

【正】 `index.js`

■P.222 Express Generator をインストールする

【補足情報】

macOS をご利用の場合、本書で説明した「`npm install -g express-generator`」ではうまく Express Generator がインストールできない症状が確認できています。もし、インストールしても `express` コマンドがうまく機能しない場合は、以下のよう実行して下さい。

```
sudo npm install -g express-generator
```

実行後、管理者のパスワードを入力すると、Express Generator がインストールされます。

■P.230 モジュールのロード表

【誤】 `"express-errors"`

【正】 `"http-errors"`

■P.253 下段の 3 行のコードについて

【訂正】

下段の 3 行のコードに下記修正があります(赤字部分)。

```
app.use('/', indexRouter);
app.use('/users', usersRouter);
app.use('/hello', hello);
```

※この 3 行の手前に、`require` 文を記述して下さい。

■P.259 本文 下から 5 行目

【誤】「`req.json`」というメソッド

【正】「`res.json`」というメソッド

■P.261 リスト 5-9 3 行目

【誤】 `'<r><th>メール</th>'+`

【正】 `'<tr><th>メール</th>'+`

■P.264 ページ中央付近の本文

【訂正】以下の文は不要につき削除します。

なお、`app.js` に記述した `var jquery=require("express-jquery")` と ~ (中略) ~ 削除しておきましょう。

■リスト 5-11, 12 について(P.266~268)

ここでは、Google ニュースの RSS にアクセスをしてデータを取得していますが、Google ニュースでは現在、日本語の RSS をやめてしまったようです。このため、アクセスするとエラーになってしまいます。

対応として、変数 `opt` の値を次のように修正して下さい。

```
var opt = {
  host: 'news.google.com',
  port: 443,
  path: '/rss?ie=UTF-8&oe=UTF-8&hl=en-US&gl=US&ceid=US:en'
};
```

これで、英語版ニュースの RSS データが表示されるようになります。

■P.332 2 行目

【誤】 前章で SQLite を使った

【正】 前章で **MySQL** を使った

■P.334 Validator の利用について

現在の Express Validator では API の仕様が変わっており、app.use(validator());は使えなくなっています。リスト 6-3 を以下のような形で記述して下さい。

```
var validator = require('express-validator');
app.use(validator());
```

↓

```
const { check, validationResult } = require('express-validator');
```

またリスト 6-4 で値のチェックを行う部分 (P335) では、req.check ではなく、check を利用して行って下さい。

```
req.check(.....
```

↓

```
check(.....
```

なお API 変更に伴い、notEmpty はなくなっているため使えません。

■P.343~344 サニタイズについて

Express Validator の API 変更により、サニタイズはなくなっており、check から呼び出すようになっていました。

・P344「エスケープ処理を行う」「トリミング(前後の余白などを取り除く)処理を行う」の 2 項目

```
req.sanitize( 項目名 ).escape();
req.sanitize( 項目名 ).trim();
```

↓

```
check(.....).escape();
check(.....).trim();
```

・P344「サニタイズ用メソッドについて」以下の 3 項目

```
req.sanitizeBody( 項目名 )
req.sanitizeParams( 項目名 )
req.sanitizeQuery( 項目名 )
```

↓

```
check(.....).sanitizeBody( 項目名 )
check(.....).sanitizeParams( 項目名 )
check(.....).sanitizeQuery( 項目名 )
```

■P.413 3 行目

【誤】 pypMyAdmin

【正】 **p**hpMyAdmin

■P.430 リスト 7-24 下から8行目

【誤】 var d2 = new Date(model.attributres.created_at);

【正】 var d2 = new Date(model.attributres.**updated_at**);

<本書紹介サイト>

<https://www.shuwasystem.co.jp/book/9784798055220.html>

<秀和システム>

<http://www.shuwasystem.co.jp/>